

提 言 書

「小学生時代の体験活動の必要性・重要性」について

令和2年2月21日

ひたちなか市社会教育委員の会議

「子どもにとって理想的な環境とは『やすらぎ』と『しげき』のある環境です。」と言ったのは、フィンランドのムーミン童話の作家、トーベ・ヤンソンです。この言葉は日本社会への警鐘ではないでしょうか。今の子どもたちは、ゆっくり時間をかけて考え、わくわく・ドキドキする体験ができていません。そのため家庭、学校、地域で様々な問題が起きています。豊かな「体験活動」ができる環境づくりが急務です。

そこで、私たち社会教育委員は、平成30～令和元年度において「小学生時代の体験活動の必要性・重要性」を提言主題に掲げて調査研究・協議に取り組み、以下のようにまとめましたので提言いたします。

提 言 内 容

- 1 小学生時代に豊かな体験活動を重ねていくことは、人間形成の上で極めて必要・重要であり、この成長時期のあらゆる機会にこの趣旨を取り入れた諸活動を展開していただきたい。
- 2 体験活動として、次のような視点からの活動事例が考えられますので、バランスの取れた多様な展開をお願いしたい。
 - ① 自然体験活動
 - ② 文化芸術体験活動
 - ③ 社会体験活動・コミュニケーション体験活動
 - ④ 身体活動体験
 - ⑤ 心の体験活動
 - ⑥ 科学体験活動
- 3 体験活動推進のため作成した「啓発パンフレット」の有効活用を図っていただきたい。
 - ① 小学校の教育活動の諸場面において
 - ② 小学校のPTA活動の諸場面において
 - ③ 地域活動の諸場面において
 - ④ 「市報」及び「市ホームページ」等の広報の諸場面において
 - ⑤ その他効果が期待できる諸場面において

1 はじめに

私たちひたちなか市社会教育委員の会議は、社会教育・生涯学習推進の視点から、社会教育行政及び広く市民の皆様方の意識高揚を進めるための提言活動を行っています。最近の提言活動では、昨今の社会の変化を受けて、児童生徒の健全な成長を目指した分野の提言活動に軸足を置いた内容に取り組んでいます。ここ10年の提言内容は、次の表のとおりです。

平成 20～21 年度	放課後学童クラブのあり方
22～23 年度	子どもたちがネット社会で被害に遭わぬために
24～25 年度	子ども会・地域活動の活性化を目指す
26～27 年度	ひたちなか市高校生会活動を支援する
28～29 年度	放課後児童教室のあり方
平成 30～令和元年度	小学生時代の体験活動を推進する

2 調査研究テーマの背景

「ここ(日本)には何でもある。ただ希望だけがない」と言ったのは作家の村上龍です。小説「希望の国のエクソダス」(2000年7月発行)の中の言葉。この言葉ほど悲観ではありませんが、現在の日本の子どもたちの多くが自分たちの未来に夢や希望を持ちにくくなっていることは確かなようです。なぜ、いつ頃から子どもたちを取り巻く環境が変わってしまったのでしょうか。

NHKの大河ドラマ「いだてん」の後半で、今から55年前の東京オリンピック当時の日本の生活の様子が紹介されていました。そこには、衣食住には恵まれていないが大人も子どもも希望に満ちた活力が感じられます。そう、団塊の世代が青年時代を過ごした1960年代から70年代半ばまでの高度経済成長の日本の社会は、未来に対しての強い期待と希望に満ち溢れていました。

団塊の世代が休日出勤もいとわず働き続けられたのは、苦労は必ず報われるという「未来志向の物語」が支えていたからでした。しかし、高度経済成長を成し遂げて成熟社会に入ってから、いわゆる定常型社会の段階になり、かつてのような「未来志向の物語」の支えがなくなりました。

今の日本は、団塊の世代の子どもたちが親となって子育てをしていますが、「子どもを取り巻く環境は悪化の一途をたどっている」と言われています。祖父母の世代の昔に比べると、親も子も経済的に恵まれ便利な生活をしているはずなのになぜでしょうか。

子どもは、家庭と学校と地域という三つの環境で育っていますが、どれも問題が山積しています。

今の家庭では、保護者による「虐待」が問題になっています。また、子どもの親への暴行や殺害も珍しくはありません。イギリスの精神分析家D・W・ウィニコットが、その著書の中で先進国に共通する危険な子育てを警告しています。他の人との比較や評価により自己肯定感が薄らぎ、子どもは自分の欲求のままには生きられない「あたかも自分がするかのように、相手の欲求を自分の欲求にかえていく」という「偽りの自己」(false self)の形成による事件事故が家庭内で起こっています。

学校では、「いじめ」の問題に苦慮しています。教師を巻き込んだ人間関係が育たなくなり、不登校や自殺にまで至る場合があります。

地域では、交通事故や災害に巻き込まれる危険が以前から起きていますが、最近では近隣の間人関係が希薄になっており、そのため「犯罪」が多発して、子どもの安全が脅かされています。

以上のような「子どもを取り巻く環境は悪化の一途をたどっている」状況は、私たち大人がつくった環境です。良きにつけ悪きにつけ子どもは大人の背中を見て生きています。子どもを取り巻く環境を改善することは、子どもにはできません。私たち大人ができることから環境改善に着手しなければならないと思います。

そこで、未来を担う日本の子どもたちの環境改善の方途の第一歩としての試みが「体験活動」であると、私たちは考えました。ノルウェーの作家ヨースタイン・ゴルデルは、その著書「ソフィーの世界」(日本語訳 1995 年発行)の中で、14 歳の少女への言葉「いい哲学者になるためにたった一つ必要なのは、驚くという才能だ」と述べており、日本の子どもたちへの警鐘として受け止めた読者が少なくありませんでした。子どもの学習環境や座学などの疑似体験が増えて、ワクワクドキドキする驚きが減少しているのではないのでしょうか。科学や芸術は身近な体験での驚きという感性から生まれてきます。

今、子どもたちの周りにはスマホや IT 機器が氾濫していて、人間関係のきずなが希薄になり、疑似体験の世界に包まれています。こういう社会だからこそ、「驚く」という才能を伸ばすことを意識した改革が望まれます。

2000 年代の教育基本法・学校教育法の改正議論の中で、「体験活動の充実」が提唱されたのは、遅きに失したとはいえ幸いでした。豊かな感性を持った子ども時代には、座学では得られない「体験活動」を充実させる教育が国策議論になりました。これまでの子どもを取り巻く教育環境で最も欠けていたのが「体験活動」で、それは五感(見る・聞く・味わう・嗅ぐ・触る)を通じた学びの推進であります。現在、全国的に学校教育の中で、「体験活動」を取り入れる努力がなされていますが、時間的な制約などもあって十分ではありません。放課後や休日など学校以外の場でも、「体験活動の充実」を進める必要があります。

3 調査研究の経過

私たちは2年間・9回の会議を開催して、その調査研究及び協議を次のような過程を踏んで進めました。

平成30年度	平成31年度・令和元年度
① 調査研究のアプローチづくり	④「体験活動の概念」づくり
② 委員による「体験活動」についての協議	⑤ 提言活動への議論
③ 市民アンケートの実施・集計・考察 (中学生 129 人、保護者 83 人、高校生 192 人)	⑥ パンフレット「小学生時代の体験活動のススメ」づくり

4 体験活動の視点の設定

私たちは体験活動の協議を進めるために、「体験の視点」を多くの協議の末に設けました。次のような視点です。

体験活動の視点

視点名	考えられる活動例
① 自然・科学体験	生きもの体験(動植物の飼育・栽培)、科学体験(実験や観察)、天体観察 など
② 文化・芸術体験	生活体験、ものづくり体験、伝統文化や異文化体験、食文化体験、音楽・美術の鑑賞や制作体験 など
③ 社会体験	人間関係、社会参加活動、職場体験、集団活動、奉仕活動 地域活動 など
④ 身体活動体験	基礎体力、健康・衛生習慣、運動・スポーツ活動 など
⑤ 心の体験	成功・感動・達成感活動、挫折・失敗体験を生かす活動、自己主張自己表現の活動 など
⑥ その他の体験	その他の体験活動



<協議のかたち①>全員による全体協議



<協議のかたち②>2班に分かれての班協議

なお、以後の協議を経て「視点」については、次のように修正しました。

① 自然体験活動
② 文化芸術活動
③ 社会体験・コミュニケーション活動
④ 身体活動体験
⑤ 心の体験活動
⑥ 科学体験活動



<協議のかたち③>ワークショップ式協議



5 市民アンケートの実施

「小学生時代の体験」を振り返り、その体験についての考察・思い・評価などを尋ねるアンケートを行いました。

(1)アンケート対象者	市内中学生4校 129 人 (各校2年生1学級)	①勝田一中 ②勝田二中 ③那珂湊中 ④田彦中
	市内中学生保護者 83 人	上記4校生徒の保護者
	勝田高校2年生全学級	192名
(2)実施時期	平成31年2月	
(3)実施方法	設問用紙を各校に配付し、回答してもらった	

6 アンケートの結果表

中学生・高校生・保護者アンケート「小学生時代に体験すべきこと」「体験させたいこと」 <集計表>

平成31年2月実施

①	自然・科学体験	・生きもの体験(動物、植物、栽培、飼育など)・科学体験・天体体験 など
②	文化・芸術体験	・生活体験・ものづくり体験・伝統文化や異文化体験・食文化・音楽・美術
③	社会体験	・人間関係・社会活動・職場体験 集団活動・奉仕活動・地域活動 など
④	身体活動体験	・基礎体力・健康・衛生習慣・運動・スポーツ活動 など
⑤	心の体験	・成功・感動・達成体験活動・挫折・失敗体験・自己主張・自己表現の場 など
⑥	その他の体験	・その他の体験 → <具体的な体験をお書きいただくとありがたいです>

アンケート参加者	中学2年生(勝田一中、二中、那珂湊中、田彦中) 129名	高校生(勝田高2年)192名	保護者(4中学生の親) 83名
-----------------	-------------------------------------	-----------------------	------------------------

問1 あなた自身が、小学生時代に一番多く経験したと思う体験は、どれですか。

	①自然体験	②文化芸術	③社会体験	④身体活動	⑤心の体験	⑥他の体験	合計
中学生	27	22	31	31	15	1	127
高校生	43	29	39	74	17	1	202
保護者	33	16	6	26	10	0	91

問2 あなた自身が、小学生時代に一番少なかったと思う体験(または体験しておきたかったこと)は？

	①自然体験	②文化芸術	③社会体験	④身体活動	⑤心の体験	⑥他の体験	合計
中学生	20	32	31	14	32	0	129
高校生	39	41	42	20	51	4	191
保護者	7	24	23	6	22	1	82

問3 あなたは、小学生時代に体験しておいて一番良かったと思う体験は、どれですか。

	①自然体験	②文化芸術	③社会体験	④身体活動	⑤心の体験	⑥他の体験	合計
中学生	23	22	39	23	25	0	132
高校生	41	20	50	50	30	1	191
保護者	30	17	9	17	9	1	82

問4 あなたが、今の小学生が一番欠けていると思う体験は、どれですか。

	①自然体験	②文化芸術	③社会体験	④身体活動	⑤心の体験	⑥他の体験	合計
中学生	17	13	45	9	44	0	128
高校生	33	21	41	35	59	3	192
保護者	23	6	12	13	30	0	84

問5 小学生が、これからの時代を生きるために「小学生時代に体験しておくべきこと」としては？

	①自然体験	②文化芸術	③社会体験	④身体活動	⑤心の体験	⑥他の体験	合計
中学生	10	6	57	21	38	0	132
高校生	28	12	66	25	57	3	191
保護者	15	5	20	5	34	1	79

黄色塗り欄は、回答数が一番多かった数値欄を表す

問6 「小学生時代に必要な体験」について、あなたの思い・お考えを書いてください。

① 中学2年生(勝田一中、二中、那珂湊中、田彦中の129名)からの振り返り・評価・思い

- 1 もう少し英語をやってみたかった。
- 2 自己主張をする。
- 3 人間関係を大事にしてほしい。

- 4 相手の事も考えて行動できる人になってほしいので、心の体験は大事だと思います。
- 5 伝統文化に触れなくなってしまうとその文化が途切れてしまうので、長く続いてきたものを続けるためにも、必要なことだと思う。伝統文化を大切にすることは大事だ。
- 6 今の小学生は、家の中で遊んだりしているので、もう少し外で遊んだ方がよい。
- 7 すぐに暴言を吐かないよう職場体験をするとよい。
- 8 小学生時代には、運動が苦手な子も、体を動かしたりした方がよい。
- 9 心の体験をすると、成功したときにより喜べる。
- 10 社会のマナーなどをもっとしっかり学ぶ体験すべきだと思う。
- 11 社会に慣れておくとよいと思う。
- 12 努力体験
- 13 法律など社会に役立つことを知ってほしい。
- 14 もっと小学生の人たちに様々な体験をすべきだと思う。
- 15 人間関係は、大人になっても必要だと思う。
- 16 社会や心の体験をもっと多く取り入れるべきだと思う。
- 17 いろいろなことを体験しよう！
- 18 がんばってほしい。
- 19 勉強
- 20 心の体験をした方がよいと思います。
- 21 自然体験
- 22 自然を大切にすること。
- 23 いろいろな人と触れ合うことが大切だと思う。
- 24 失敗して学ぶこと。
- 25 いろいろなことを学ぶべき。
- 26 できることをできるうちにやった方がよい。
- 27 大きくなると体験が少なくなると思うので、多くの体験をした方がよい。
- 28 あきらめず責任を持つ心を育てるために、心の体験は大切だと思う。
- 29 たくさんの事を経験すること。
- 30 社会をしっかりと学ぶために社会体験は大切だと思う。
- 31 社会に出ても生活できるように、社会体験を増やした方がよいと思う。
- 32 小学生の時に運動をしなかったのが、中学生になって苦労している。運動を積極的に体験するとよい。
- 33 現実を見よう。
- 34 社会に出るうえでの基本動作とマナーを学べることがあるとよい。
- 35 スマホを持つと子には、マナーが大切だと思う。
- 36 小学生時代に学んだことや身に付けたことは、様々な面で中学生の今自分を助けてくれていると思います。小学生の皆さんには、ぜひたくさんの事を体験して学んで、挑戦して欲しいと思います。
- 37 言葉使いなど社会的常識を小学生のうちに教育すべきだと思います。
- 38 何事も挑戦。
- 39 コミュニケーション能力は、今後の生活で一番大切だと思っています。
- 40 年がいくつだろうと、社会体験はとても大切だと思う。
- 41 小学生のうちにひとつでも素晴らしい体験をしたら、思い出にもなるし、将来きっと役に立つ。
- 42 特に社会体験は一生役に立つと思うので、小学生の内に必ず社会体験をした方がよい。
- 43 社会体験は、社会生活をしていく上で人として当たり前のことを知り、行動することだから必要です。
- 44 小学生のうちにいろいろな体験をしておくことで、これからの生活に役に立つのでたくさんすべきです。
- 45 最近は人見知りや人間関係づくりが下手なので、私もその傾向なので、心の体験はこれからの生活に必要なではないかと思っています。
- 46 これからはもう少し道徳的な体験を増やしていく方がよい。
- 47 たくさんの体験をしておかないと、将来できないことが出てくるので、体験はたくさんやった方がよい。
- 48 子どものうちだからできる挑戦をたくさんして、大人になったとき生かせるようにしていきたい。
- 49 社会体験ができる機会をたくさん増やしてほしい。
- 50 ゲームなどではなくて、外で遊ぶことをすることがよい。小学生で学んだことは人生で一番覚えているはず。
- 51 自分の長所を生かせる環境を自分で作り上げることが重要で、先生や大人は、子どもが成長するための環境や体験の機会をたくさん作ってほしい。
- 52 人間関係で友だちとの関係が悪くなった時もあった。人間関係づくりができる体験があるとよい。

- 53 小学生頃に体験したことは、心に残っているので、遊びも厳しいこともたくさんやれるようだとい。
- 54 コミュニケーションの体験は大切だと思う。
- 55 小学生の時にたくさんのことにチャレンジしたりして失敗したり、成功したりしての体験が将来役に立つと思うので、何回も多くの体験だとい。
- 56 体験は、広く・浅く・何回もが大切だと思う。
- 57 人とのかかわりがうまくできていける体験は大切です。
- 58 小学生のうちから、いろいろな数多く体験することが重要だと思います。
- 59 小学生の時から、特に社会での人との関わりを学んでいく体験は、多い方がよいと思います。
- 60 人間関係の特に心の持ち方や人との接し方の力がつく体験がよい。
- 61 集団行動ができなかったり、人との接し方の態度が悪いと、人間関係がうまくいかないから、人間関係が作れる体験は大切です。
- 62 小学生の時から人との関わり方を知ってほしい。後で苦労するから。体験をたくさん入れてほしい。
- 63 将来できるようになるには、小さいときにたくさん体験をしておいた方がよい。
- 64 小学生の頃は、活発で何でもやろうとする心はあるし、恥ずかしいという気持ちはあまりないので、特に「自己主張」の体験をたくさんすればよい。
- 65 小学生時代に様々な体験ができれば、未来につながるものが見つけれられるので良いと思うし、体験はたくさん種類があった方がよい。
- 66 様々な体験をすべき。
- 67 集団活動の体験は大きい力になる。
- 68 体験することは、これからの社会に対応できるかになり、人生の鍵になる。
- 69 デジタルの普及であまり体験しないので、自分でやることの体験が必要になる。
- 70 社会を少しでも多く知る機会を小学生のうちから作っておくとよい。

② 高校生(勝田高校2年生全学級 192 名)からの振り返り・評価・思い

- 1 常識とマナーの体験をさせたい
- 2 文化芸術の体験は楽しかった
- 3 学校主催の天体観察は楽しかった。どこの学校でもやってほしい。
- 4 放課後のスマートホンゲームだけでなく、外遊び(鬼ごっこなど)をすべきだ。
- 5 将来の健康のために、体を動かす遊びをすべきだ。
- 6 自分は、他の市町村の高校生会に入っていて、そこで小学生の体験学習のサポートをしているが、自分のためにも役立っている。こういう体験を増やしてほしい。
- 7 いじめに発展しないよう思いやりの心が育つような体験をしてほしい。
- 8 多くの人たちとのかかわりができる体験をしてほしい。
- 9 ちゃんとしていない子供が増えている。公共心が育ち、他人の気持ちがわかる体験をしてほしい。
- 10 生きものの「生」について学ぶ体験をしてほしい。
- 11 悲しいこと、うれしいことをたくさん感じる体験をしてほしい。
- 12 道徳的な学習や体験をしてほしい。
- 13 文化芸術に多く触れて、豊かな感性を育ててほしい。
- 14 何ごとにもしっかり取り組める体験をしてほしい。
- 15 地域の歴史に触れて学んでほしい。
- 16 自分自身のことを考える場がほしい。
- 17 小学生の時に、社会の学習をしたことが進路を決めるのに役立った。
- 18 いろいろな行事に参加したことが役立ったので、行事に積極的に参加してほしい。
- 19 もう少し広い目で世間を見ることができるといい体験をしたい。
- 20 子どもは「はしゃぎまわってなんぼ」だ。野山を駆け回ってほしい。
- 21 救急救命の体験をしてほしい。事故に遭った時の対応の学習。
- 22 大きくなるにつれて好奇心が薄れてくるので、新しい発見ができる環境がほしい。
- 23 失敗にめげない心を育てるために、失敗の体験を多くできる環境がほしい。
- 24 心の成長ができるようにも守ってくれる環境がほしい。
- 25 自立心を育てるためには、泊りがけで出かける体験が効果的だと思う。
- 26 子どもの頃から社会性を身に付ける学習が必要だ。

- 27 夢を与えてくれるような体験、例えば成功者の体験を聞くなどの機会をつくる。
- 28 自己主張ができる場が少ない。自分の意見を述べる体験がほしい
- 29 人間関係がしっかりできるようになるのが一番。人との付き合い方を学ぶ体験がほしい。

③ 保護者(勝田一中、二中、那珂湊中、田彦中の親 83 名)からの振り返り・評価・思い

- 1 スマホやゲームから離れて、自然の中で遊ぶことが大切だと思います。
- 2 好きなことや夢中になれるようなことが1つでも見つかることができる体験をたくさんする。
- 3 失敗や挫折から努力して成功につながる体験は大切です。
- 4 これから失敗や挫折したときに立ち直れる力がつく体験があるとよい。
- 5 私は小学生時代友人と一緒に自然の中で楽しく遊んだ経験があります。いまは自然がなくなってきています。これ以上自然を無くさずに、緑の中で遊ぶ経験が大切だと思います。
- 6 しっかりと体験の時間を増やすことが大切。
- 7 立派な大人になるためには、いろいろな体験を経ることや失敗、挫折体験も大切です。
- 8 大人になると体験はできなくなってしまうので、小さいうちに多くの体験の機会があるとよい。
- 9 体験の一番は外で元気に遊ぶこと。人間の成長には自然とのふれあいが大切だから。
- 10 早い段階で失敗や挫折などを体験して、どう乗り越えていくかを考えられる人になってほしい。
- 11 心の体験を増やして、社会に出たときに後で役立てほしいと思います。
- 12 学校帰りに鬼ごっこを毎日のようにやり体力や持久力がついた。月に一度のお楽しみ会では、子供たちが企画計画して行事をして、マナーやルール、成功体験を教わりました。水戸市のように芸術館での鑑賞体験などひたちなか市でもやってほしい。
- 13 日本文化を学ぶ体験活動があるとよい。
- 14 様々な体験を通して、その子自身の可能性を見つけるきっかけを作って、選択肢をつくってほしい。
- 15 小学生時代は素直な心の時期なので、心で感じる体験をたくさんしてほしいと思います。
- 16 勉強も大切ですが、人間性を育む大事な時期に、いろいろな体験をすることは、とても大切なことだと思います。学校・家庭・地域の共通認識のもとに、子ども達が主体になり、大人は見守り、手助けしていくことが大切。
- 17 誰とでもわけへだてなくコミュニケーションがとれる体験をさせたい。
- 18 これからはメンタルの強さが大切だと思います。
- 19 人とのつながりが、思いやりや心の痛みなど、人間性を豊かにする体験をさせたい。
- 20 自分の将来に夢を持てること体験が少ないので、もっと増やしてほしい。
- 21 今は人とのつながりが大切です。上下関係、同じ世代とのコミュニケーションなど勉強だけでなく、広がり大切にしてほしい。目上の人に対して敬意を払う人になってほしいので、それにつながる体験があるとよい。
- 22 小学生の頃に友だちや近所の人などにかかわることで、相手の気持ちや立場を理解できるような土台ができると思います。
- 24 家族・友達・周囲の人たちに愛され必要とされる存在を実感すること、自分自身を認めること、自尊心を高めること、失敗をたくさんして経験値を増やしてほしい。
- 25 自然体験によって生きものや命を尊ぶ心を学んでほしい。
- 26 ゲームやYOUTUBEなどを見たりする遊びが多くなっています。家にこもりがちにならないようになるべく外に出て体を動かすことが大切だと思います。体力が強くなると精神も強くなるそうです。多様化する社会の中で、強い心をもって生き抜いてほしいと思います。
- 27 的外れかもしれないが、私の子どもの頃は外で遊ぶことが多く、当たり前のように体感する動植物との関わりや自然(季節感)体験が心の体験に深く関係していると思います。
- 28 意味が有る無しにとらわれない希望に沿った自由な体験をさせてやりたい。
- 29 数多く多くの種類の体験を通して、五感を育てることが自信へとつながっていくのだと思います。
- 30 人と触れ合う体験が大切だと思います。たくさんコミュニケーションを増やすこと、人の痛み、(心の痛み)を知る体験が大切だと思う。
- 31 人の温かい気持ち、誰もが大事に思われていて守られているという実感、認めてもらえるという一人の人間としての自信が育まれる体験ができるようだとよい。
- 32 こういう世の中になっているので、大人になった時に、いろいろな事件などが起こらないようにするために、心の体験は大切だと思う。
- 33 友達とのつき合い方や我慢すること、人にゆずることを学べる体験をさせたい。
- 34 たくさん運動することの体験は、かなりつらいと思ってもやり続けることで、心の成長ができる。

- 35 学校では「教室(学校)から外に出での活動」を多く望みます。
- 36 我慢を知らない、言われないと気付かない、自己主張や心の叫びの表現の仕方が分からない子どもが多いと思います。心の体験を通して物ごとの良い悪いの判断も含め、「人と会話する体験」が大事だと思います。
- 37 小学生時代は、勉強はそこそこできればよいと思うので、力いっぱい身体と頭を使っての外遊びに夢中になってほしい。
- 38 心の体験が大切だと思います。小学生であっても友だちの気持ちが分かるように。自分の思っていることや考えを伝えられるようになればいろいろなことが見えてきて、心の成長へ繋がっていくと思います。

7 「小学生時代の体験活動への思い」アンケート結果から浮かび上がってきたこと

- ① 三者(中学生・高校生・保護者)とも、自分自身の小学生時代の体験に対する「強い思い」を持っていることがわかります。

小学生時代の体験回答については、「良き体験だった」との思い出と、「もっとやっておけばよかった」の二側面がありました。回答者は誰もがその両方の体験の思い出を持っていました。どちらがより強い思いがあるかについては人それぞれですが、「小学生時代の体験は必要であり、重要だ」という認識は誰もが持っていることが分かってきます。

- ② その「良き思い出」と「もっとやっておけばよかった」の二側面について、さらに考察を進めると、後者の気持ちが大きく出ているということが強く感じられます。実社会に出てからの考え方や活動の幅が大きくなってくると、小学生時代の体験の広さや深さが影響していたという意識が大きくなってきているようです。「活動の原点は小学生時代にあった」という思いが強くなっていくことが分かってきます。

- ③ 三者(中学生・高校生・保護者)とも、「心の体験」が「とても大切な体験だ」という思いを持っていることがわかります。困難にあったときの対応、乗り越える力が「心の体験」をベースにした体験力であることがわかります。さらに成功体験とともに挫折や失敗体験が、その後の人生の生きる力となっているようです。

8 「小学生時代の体験活動の必要性・重要性」について

これまでの委員協議に加え、「小学生時代の体験活動への思い」アンケート結果を踏まえた「体験活動」の意義について、私たちは、次のように考えました。

- ① 「小学生時代」は、人間成長していくための基礎を培う時期であり、社会に生きる人間としての基礎基本を身に付け始める時期です。この時期に身に付けた心と能力や「生きる力」は、生涯のエネルギー源として発揮されていくはずで。
- ② 小学生が「体験活動」を自分自身で進めることは、現実的には容易ではありません。それには大人の手が必要で、「系統的に」「多様な」「発達段階に応じた」「日常生活の中でできる」などの視点からの「体験プログラム」を用意する必要があります。親を含めて大人の「先行経験」に基づいた体験活動ができることを期待します。

③ 「多様な体験」としての視点を、私たちは協議の末に、次のような6視点を設けました。

ア 自然体験活動	イ 文化芸術体験活動
ウ 社会体験活動・コミュニケーション 体験活動	エ 身体活動体験
オ 心の体験活動	カ 科学体験活動

数多く種類のある体験をこの6分類に分けて、これらをバランスよく実践して行ってほしいと私たちは願っています。そして、これらの体験を進めていくうちに、自分に適しているものが浮かび上がってくるでしょうから、やがては、それを「自分の専門分野」とするという選択をして行ってほしいと願うものです。

④ ひたちなか市及び市教育委員会やコミュニティセンターなどが計画して実施している活動には、以下のようなものがあります。

大洗港から北海道への「洋上学習」や、常陸太田市での「自然体験キャンプ」、「子ども発明発見クラブ」、市立図書館が募集する活動など。

民間や地域には、青少年健全育成団体が体験活動を展開している「コミュニティ組織青少年部会」や「ボーイスカウト・ガールスカウト」、「ユネスコ協会」、「スポーツ少年団」、「子ども会」などがありますので、積極的に参加できるように応援したいと思っています。

⑤ 体験活動は、親子で共通の願いと共通理解がベースにならなければなりません。そのために、親子の会話を密にして、喜びや苦しみを共にしていけるような環境を整える必要があります。

以上が、私たちひたちなか市社会教育委員の会議の「小学生時代の体験活動の必要性・重要性」についての考えです。五感が輝いている小学生時代に、多様で心豊かな体験活動をすることができれば、めざましく人間成長する大きな原動力になっていくと信じています。

体験活動を計画するのは、親であり、学校であり、私たちを含めた地域社会でもあります。そのために体験活動の意義を整理して「小学生時代の体験活動のススメ」というパンフレットを作成しました。わくわく・ドキドキの驚く心を育てたい・大切にしたいと願っている私たちの調査研究・協議の末につくり上げたもので、有効活用していただければ幸いです。

このような思い・願いから私たちの会議では、市民の皆さまとともに「小学生時代の体験活動の必要性・重要性」について共通理解を図りたく、ここに提言するものであります。

9 提言活動に参加したひたちなか市社会教育委員

儘田 茂樹(議長)	渋谷 照夫(副議長)	斎藤 孝夫(幹事)	安島 孝博	高木 貴之
川又 晴彦	田中きよ子	笹島 豊	磯崎 幸子	高橋早智子
作山 彰	菊池 道子	高橋 一勝		